ながまち荘だより

VOL 45

元旦恒例の 獅子舞い

年女の方と施設長で、
皆さんのお部屋をまわって
厄払いをしました。

今年も良い一年で
ありますように…

編集発行 社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部山形県済生会 特別養護老人ホーム ながまち荘
〒990-0811 山形市長町751番地
■指定介護老人福祉施設 TEL(023)684-2391(代表) FAX(023)684-2394
■指定短期入所生活介護事業所 TEL(023)681-5732
(介護予防短期入所生活介護事業所)
■指定通所介護事業所 TEL(023)681-7589
(介護予防通所介護事業所)
■指定居宅介護支援事業所 TEL(023)681-2865
■認知症初期集中支援チームおれんじサポートチームえがお
TEL(023)687-0200 FAX(023)687-0211
■済生会なでしこ地域包括支援センター
〒990-8545 山形市沖町79番1 山形済生病院サービス棟1階
TEL(023)681-7450(代表) FAX(023)681-7603
E-mail nagamachiso@yamagata-saiseikai.org

発行責任者 施設長 峯田幸悦
発行日 平成31年2月
印刷 コロニー印刷

ご挨拶

特別養護老人ホームながまち荘施設長
峯田　幸悦

季節が過ぎるのも早いもので、まもなく春の足音も聞こえて来るようです。昨年中は当荘の取り組みへのご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございました。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

今年は、平成31年で己亥（つちのとい）年です。この亥生まれの年は、猪突猛進で積極性のある飛躍の意味があります。そして平成も4月で終わり、新たな元号が始まる歴史的な年でもあります。山形県済生会としても支部開設75周年の年になります。旧フローラさいせいが「小白川ケアセンター」と名称新たに、乳児院、サービス付き高齢者向け住宅、短期・デイ事業を開始する複合型施設としてスタートします。ながまち荘でも、平成28年3月に新総合事業のデイC型を受諾してから現在7事業（特養・短期・通所・居宅・包括・初期集中支援・デイC型）を展開しており、引き続き地域に根づいた施設として努めていきたいと考えております。また東日本大震災の影響による人材不足でオープンが遅れていた福島の特養「梅の香」ですが、昨年7月よりながまち荘から職員を派遣して始動しており、職員派遣は山形県済生会を中心とし、3か月を1クールとして交代しながら平成32年まで続けていく考えです。そして、ながまち荘の介護力向上やブランド力を発揮する為、「SDGs」や「第三者評価による自己評価」にも努め、職員一丸となって融和協調の精神で世界一の介護を目指していきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

送迎車のデザインが変わりました！

当施設のデイサービス車一台が済生会新デザインに変わりました。全国の済生会で新たなデザインが取り入れ始めましたが、山形県済生会では第一号です。以前は青を基調にしていましたが、色鮮やかななでしこの花が咲くデザインとなっております。

ちなみに皆さんは済生会で使用しているなでしこの花はどんな由来から来ているか知っていますか。

なでしこの花は済生会のトレードマークとなっており、その由来は、皇族でありました初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下が明治45年、済生会の事業の精神を野に咲く撫子に託してお詠みになったことから始まっております。

『露にふす　末野の小草　いかにぞと
あさタかかる　わがこころかな』

―野の果てで、露に打たれてしおれるナデシコのように、生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、いつも気にかかってしかたがない―

この歌の主旨をいつの世にも忘れないように、済生会の紋章として今も使われています。

済生会のなでしこの花の由来も知っていただいたうえで、ぜひ皆様のご自宅に送迎車でお迎えに伺う際には新たな気持ちで見てみてくださいね。

生活困窮者支援事業

～なでしこプラン～

済生会は生活困窮者を支援する事業「なでしこプラン」を実施しています。ホームレスや家庭内暴力（DV）被害者、刑務所出所者、障害者、高齢者、在留外国人等で、医療・福祉サービスにアクセスできない人たちを対象に巡回健診、予防接種、健康相談等を行うものです。ながまち荘では、「利用者負担軽減制度の促進」や「刑余者の社会貢献活動受入・刑余者の就労支援」、「買い物弱者支援事業」、「定住外国人介護職員支援事業」等を実施しています。

〈山形県保護観察所長感謝状を授与されました。〉

今回、刑余者の社会貢献活動の受入や就労支援（平成29年度～協力事業主）の成果が高く評価され、平成30年10月25日に行われた第46回山形県更生保護大会において「山形県保護観察所長感謝状」を受彰しました。

日本の犯罪件数は減少傾向にあるものの、刑法犯で検挙された者に占める再犯者の割合は、依然として上昇傾向にあり、さらに、再犯者の多くが司法と福祉のはざまにいる高齢者や障害者であること、無職の刑余者の再犯率は、有職の者と比べ約4倍と高いということに着目していく必要があります。一度あやまちを犯した人が社会に復帰できない現実を打開し、再犯防止を図っていくためには、刑余者の生活を安定させ孤立させない支援や雇用の確保（就労支援）がとても重要であると思います。

今後も済生会の「施薬救療」の理念のもと保護観察所や更生保護施設、保護司などの関係機関と緊密な連携を行いながら、刑余者の社会復帰を支援、安全・安心な社会の実現のために尽力していきたいと思います。

（管理課長　岩﨑　勝也）

ファッションショー Fashion Show

11月7日、山本学園の衣創科の皆さんがファッションショーを披露してくださいました。

色鮮やかな和服やウェディングドレスなど手作りの衣装を身に纏い、颯爽とステージを歩く生徒さんのキラキラとした姿を見て、ご利用者様も目を輝かせながら「すごいなぁ」「自分も若返るみだいだ～」「着てみた～い」とお話されておりました。

長期入所（ホーム）

～日常の様子～

ケーキバイキング

敬老会

クリスマス会

出前寿司

誕生会

福島県被災地介護施設再開等支援事業1年目を終えて…

平成30年7月～当施設より南相馬福祉会特別養護老人ホーム梅の香に応援職員として各1名3か月間派遣しました。

● 会田るみ主任介護員

応援職員第1号と大々的に報じられ、ハードルを上げられたような感覚でしたが、入居者のため、職員のため、施設同士のためと目標を立て、今までのノウハウを遺憾なく発揮してきました。私にとって3か月間は有意義であり、又、厳しい福祉の世界を知ることにもつながりました。今回の機会を与えて下さった皆様に感謝します。

● 大石瑠花介護員

3か月はあっという間に終わってしまいました。自分にできるだろうかと不安な気持ちもありましたが、今回の経験を通して「介護」に対する視野が広がりました。今後に繋げられるよう努めていきたいと思います。

この計画は2か年計画のため、現在も山形県済生会で継続しており、今後も当施設からも派遣される予定です。

ショートステイ

今年もみんなで
楽しく過ごしましょう。

2019
お正月獅子舞

敬老会

100歳のお祝い

ハロウィン

デイサービス

園芸療法

芋煮会

山形美容専門学校の慰問

～日常の風景～
今年もあふれる笑顔を
お届けします!

外食会

干し柿作り

地域で〝認サポ&声掛け訓練〟開催

平成30年10月24日、おれんじサポートチームえがおと他法人グループホームとの共催で、認知症サポーター養成講座&声がけ訓練を開催しました。近年、認知症高齢者の徘徊問題があり、早期発見につなげるには地域の見守りが重要となってきます。そこで、認知症についての講話〝認知症サポーター養成講座〟と、認知症高齢者の方に気軽に声がけができる地域づくりの一環として、実際に道端に出て声をかける〝声掛け訓練〟を実施しました。

当日は、グループホームを会場に、地区関係者や関係機関など約40名の方が参加され、大変ご好評をいただきました。地域の皆さま、ご協力ありがとうございました。

おれんじサポートチームえがおより

認知症を予防するための8つのポイント

脳や身体を使わないことは認知症の発症を招き、進行を加速させます。
認知症を予防するためには、発症するリスクを減らす生活を続けていくことが大切です。

規則正しい生活

日中の時間を活動的に過ごすことで、夜は安眠しやすくなります

たくさん会話し、たくさん笑う

楽しい会話は記憶や学習機能を高める効果があります

就寝前の歯みがき、うがい、マッサージ

口のなかを清潔に保ち、マッサージで口の働きを促しましょう

噛ミング30

ひと口食べたら30回噛むことを心がけましょう

正しい姿勢で歩行

かかとから足を下ろして しっかり蹴りだすように歩きましょう

起立練習

1,2,3,4 で立ち、5,6,7,8 で座る練習を 1 日 1 回以上行いましょう

栄養バランスを考えた食事

必要な栄養が足りていないと、脳の働きも低下します

定期的に体重測定、ふくらはぎチェックを

下半身が痩せてくると、骨折や寝たきりの危険性も高まるので要注意！

編集後記

今年度は、昨年2月に行われた介護甲子園での優勝をきっかけに、様々な機関にながまち荘での取り組みを取り上げていただき、全国の方々にながまち荘の名前を知ってもらえた1年となりました。今後もこれに慢心せず、いただいた応援の言葉を励みにし、職員全員でより良い施設を目指して頑張っていきたいと思います。

広報委員／岩﨑勝也、後藤順子、山川直美、佐藤郁恵、樋口麻里、江口智佳子、髙見友郁、三浦真澄、齋藤仁美
大場智子、鈴木貴子、後藤牧子